

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年1月28日

協議会名:三條市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持改善費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	沿線地域の自治会に対し、廃線の危機を認識してもらうとともに利用促進を呼びかけるチラシの配布を行った(H25.6)。また、三條市内の高等学校に通学する見込みの下田中学校卒業生に対し、利用時間、方法などを記載したチラシを配布し、周知を図った(H26.3)。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数10人に対し、平成25年10月～平成26年9月までの実績は3.1人であり、大幅に目標を下回っている。 学校、自治会を通じてチラシを配布するなどの周知を図っているところであるが、バスを利用してもらおうとする働きかけが不足していたためと思われる。	引き続き利用促進に向けてチラシ等による啓発を行うとともに、沿線地域住民のニーズを把握するため説明会やアンケート調査などの実施を検討する。
	高校生通学ライナーバス (東三條駅～県央工業高等学校)	三條市内の高等学校に通学する見込みの下田中学校卒業生に対し、利用時間、方法などを記載したチラシを配布し、周知を図った(H26.3)。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数35人に対し、平成25年10月～平成26年9月までの実績は26人であり、目標を下回っている。 高校への通学手段についての調査結果を見ると鉄道、自転車がメインとなっており、通学ライナーバスの利用が全体の1%程度となっている。	現状では鉄道駅から高校までの交通手段として自転車が重要な位置を占めている状況であり、鉄道駅発の通学手段の充実が必要である。ライナーバスの利用促進に向けて啓発等を行うとともに、利用者のニーズ把握を行う。
	市内循環バス南コース (市内)	-	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数100人に対し、平成26年4月～9月までの実績は63.1人であり、目標を下回っている。 特に平成26年4月から増設した嵐南コース、嵐北コースについては市民の認知度が低いため利用が低調であった。	市広報紙などを通じて新たに増設したコースの周知を図り、利用促進に努めるとともに、利用者アンケートを実施し、既存の他のルートも含めた中で抜本的な見直しに向けた中期的計画を策定する。
	市内循環バス北コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。		
市内循環バス嵐南コース (市内)	A 計画どおり事業は適切に実施された。				
市内循環バス嵐北コース (市内)	A 計画どおり事業は適切に実施された。				
株式会社エス・タクシー	三條市デマンド交通 (三條市内)	持続可能な公共交通機関とすべく、平成26年1月に利用料金の見直し(値上げ)を実施したことにより行政負担額の抑制を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数400人に対し、平成25年10月～平成26年9月までの実績は361.4人であり、目標を下回っている。 平成26年1月の利用料金の見直しによる影響と考えられる。	利用が減った、あるいは利用をやめた利用者の追跡調査を実施し、原因を探ると同時に、必要に応じて適切な対応を検討する。
三條タクシー株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		
中越交通株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		
日の丸観光タクシー株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		